

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000580		
法人名	あんしんケアホーム和光株式会社		
事業所名	グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)		
所在地	小樽市潮見台2丁目3番4号		
自己評価作成日	令和元 年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2 年 1 月 30 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000580-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年より介護ソフトを導入し、介護記録をタブレット端末で入力するほか、ケアプラン、アセスメント、入居者様や職員の情報管理、介護報酬の請求等、一気通貫で管理できる体制を整備した。職員からは、記録業務が軽減されたとの感想が出されている。職員の待遇改善の取り組みとして、平成28年から資格取得支援制度を導入。初任者研修や実務者研修の受講希望者に対しては、受講料の半額を会社が補助するとともにスクーリングの日程に合わせて休みをとれるように配慮している。その他、認知症介護実践者研修なども、経験年数や役職を考慮し積極的に受講させている。さらに「和光版働き方改革」として、職員の配置に余裕がある日は、半日有給の取得を奨励している。日常の介護においては、広くゆとりのある建物を活用し、歩行器や車いす等の器具の使用には支障がなく、また他ユニットへの散歩など天候に左右されずに運動する機会を持てるよう努めている。更にホーム内のデイルームを活用し、週1回の体操教室や、月1回和紙工芸と絵手紙教室、笑いヨガ教室および押し花アート教室を実施。その他、不定期ではあるが、高校性による合唱や、ボランティアによる演奏会などを行い、入居者様に楽しんでもらえるよう、またボランティアの皆様には発表の場を提供できるよう取り組んでいる。その他、入居前からの生活習慣継続の一環として、入居後も掛かりつけ医を受診出来るよう支援し、受診の際は職員が同行して日頃様子を医師に報告し指示を受けている。また、ご本人の状態やご家族の希望に応じて、訪問診療を行っている医療機関への転院についても対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道5号線に近い閑静な住宅街にある2階建て3ユニットのグループホームで、1階に1ユニットと大浴場があり、2階は2ユニットの造りになっている。居間からは潮見台シャンツェが遠望でき四季の移り変わりを楽しむことが出来る環境に恵まれた地にある。職員は理念カードを常に携帯し、理念に沿った「生活のパートナー」として日々心がけ、入居者と共に心地よい関わりを通して、一人ひとりが望む生活をサポートしながら穏やかで充実した生活を過ごせるよう支援をしている。平成30年から介護ソフトを導入し、タブレットによる介護記録やケアプラン、アセスメント、情報管理等を一元管理できる体制を整えている。1階にある多目的ホールでは、オカリナ演奏会、近郊の高校生による合唱会等のイベントが企画され、利用者、地域住民も参加して交流している。また、地域の祭りには子ども神輿が事業所に立ち寄り、事業所の祭りには家族や地域住民等が参加して相互に交流が行われている。運営者は、職員育成にも力を入れており、資格取得支援制度の導入や研修の参加にも積極的に支援を行い、職員は日々サービスの向上を目指しケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が記入されたカードを携帯している。年4回の全体研修、月初めの朝の申し送りでは声を出し復唱している。	事業所理念を各ユニットに掲示し、職員は理念カードを常に携帯して、内部研修などで共有しながら、入居者と共に心地よい関わりを通して、一人ひとりが望む生活を過ごせるよう職員一同が共に支えあい日々のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホーム祭り(和光まつり)の参加を地域の方に呼びかけ参加していただいている。町内会の子ども神輿が立ち寄ってくれている。ボランティアの催し、地域の高校生の合唱等で交流を行っている。	地域の一員として町内会に加入し、地域の祭りには子ども神輿が事業所に立ち寄り、事業所の祭りには家族や地域住民等が参加して交流が行われている。また、高校生のボランティアが来訪してダンス、オカリナ演奏会などで相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、認知症の理解や支援の方法を啓もうしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方、地域包括支援センター職員をメンバーに運営やサービス、行事の内容を報告、意見交換している。	年6回開催し、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員などが出席し、運営状況や行事などを報告し、意見や助言、地域の情報を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営者及び施設長は直接担当窓口へ訪問、電話する機会に相談や報告、情報交換を行っている。	市担当者が運営推進会議に参加し指導、助言を得ているほか、施設長は市担当者を訪問し、運営状況の報告や書類を提出して、情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修では、全職員が身体拘束をしないケアの研修に参加。拘束しないケアの徹底に努めている。	外部研修に参加し、参加者は内部研修で職員全体に報告して事例研修を行って情報を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関や各ユニットの出入り口には、チャイムを設置し、安全面に配慮しながら見守り支援に努めている。玄関は、防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修では、虐待の防止について学び、理解し、虐待の防止に努めている。		

グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体研修を年間4回催し、学ぶ機会を持ち理解を深め、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書、契約事項を管理者が十分な説明を行って、納得の上、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内部、外部の苦情相談受付窓口を重要事項説明書に記入しており、家族等が来設時、職員に対し意見、要望を話せるように努めている。	利用者の意見、要望は、日々の会話などから把握に努め、家族とは、来訪された機会や電話等で積極的に会話をして情報を提供し、意見、要望を聞くように努めて、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体研修や代表者との面談等により、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、日常業務で話しやすい雰囲気づくりに心がけ、会議や内部研修、個人面談等で意見や要望を聞いて検討し運営に反映させている。待遇改善についても積極的に職員の意見を尊重し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、出来る限り職場環境、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会等、参加希望者に対して支援し、研修後、レポート等により全職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加盟し、勉強会、相互訪問等の活動を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、ご本人、ご家族と面談で十分な聞き取りを行い、ご本人が望む形で生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の際、ご家族から入居前の様子や生活歴、不安な事、要望を十分聞き取り、入居後も日常の様子を報告し、話し合い共に支えあう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向をしっかりと把握し、サービス導入段階で安心してサービスを受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶという姿勢で共に生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご本人の状態を伝えながら家族の意向を伺っている。職員が全てを支援するのではなく、ご家族に出来る事はしていただき、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会などを通して、馴染みの関係が保たれている。面会時は、ゆっくりと過ごして頂き、関係が継続されるよう支援している。	知人や友人の来訪の際には職員が気軽に声掛けして、ゆっくりと過ごせるよう雰囲気づくりに心がけている。かかりつけ病院への支援や馴染みの美容室の支援等、馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の人間関係を把握し、自然な関係が出来るよう無理に仲介に入らず、見守りを重視している。協力し合ったり、尊敬しあえる場面を作り、お互いに支えあえるような支援に努めている。		

グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、必要に応じてご家族の相談などがあれば対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話、表情、行動等から入居者の思いを聞いたり、感じたりし職員間で共有し意見を出し合ってケアに活かしている。困難な場合は、ご家族からも情報をいただいている。	日々の会話や表情、日頃の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、意思疎通が困難な場合は家族からの情報や意見、利用者の仕草などから把握して思いや意向に添うよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報、ご家族、ご本人との会話を通して、出来るだけご本人のこれまでの生活様式に沿えるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで生活できるよう、生活状況、心身状態を把握して記録している。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議にてご本人の現状を確認し、意見やアイデアを出し合いながら、現状に合った介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、ユニット会議で情報提供や意見交換を行い、ケアマネージャーが全体プランを作成し、4ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成して家族の確認印を得ている。状況に変化があれば、その都度、見直すこととしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の色々な気づきを職員間で情報共有し、実践の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車での外出など、本人や家族からの要望には可能な限り応じ、サービスが出来る様に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、近隣の高校生による合唱や演奏会など色々な催しを行い、入居者様が楽しんでいただけるよう支援している。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望を尊重し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診時には、職員が同行し医師と情報交換を行っている。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診している。職員が同行し、医師に日頃の様子や状況を説明し、受診結果については変化があれば、その都度家族に報告をしている。

グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に少しでも変化があった場合は、看護師に報告し、指示を受け必要があれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は施設職員が定期的に見舞いに行っている。また、家族や病院と連絡を取り、早期に退院できるよう話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者様やご家族にホームとしての方針を伝えている。 また、重度化した際など、医師、ご家族と連絡を取り素早く対応している。	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」に基づき、利用者と家族に説明し、理解を得ている。また、重度化した場合は、本人や家族、医師と連携し、方針を共有して希望に添えるよう最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修にて応急手当等の講義を受けている。また、緊急時マニュアルを設置し、参考にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。消防署主催の消火訓練にも参加している。 運営推進会議を通して、地域との連携について取り組んでいる。	消防署の指導の下、日中と夜間の火災想定で年2回の避難訓練を実施している。事業所は住宅街にあるため、災害時には地域住民の協力が得られるよう運営推進会議を通して連携を図っている。火災運動型自動報知器を設置している。	昨年9月の胆振東部地震により長時間停電を経験し、具体的対策を検討した結果、カセットコンロやLEDのランタン、携帯ライト、電池等を備蓄しているが、冬季に長期停電があった場合を想定して防寒対策用品の充実を図る事を期待する。また、災害時における地域住民や町内会とさらに連携を深める取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の大きさに配慮している。また、一人一人の個性を尊重し、画一的な対応にならないようにしている。	職員は利用者と同じ目線で、言葉かけは個性を尊重し、プライドを損ねないケアに心がけている。トイレ誘導や入浴時は、尊厳を傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定しやすい声掛けを行っている。本人の思いを聞き、可能な限り支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個々の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様やご家族の希望を聞き、可能な限り希望に添えるように支援している。また、定期的に訪問の理美容サービスをうけている。		

グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を掛け、利用者と職員が一緒にテーブルで会話しながら食事をしている。介助が必要な時は、一人一人の状態に応じた支援をしている。	献立は栄養士が作成し、食材納入は業者に委託している。季節食を取り入れたり誕生食の様な行事食は利用者の希望や要望を聞きながら作り、食事時は、テレビを消し、馴染みの音楽を聴きながら、職員と一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った食事量、形態で提供している。記録を付け食事量、水分量を細かく把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、入れ歯洗浄、うがい等を行っていただいている。自分で出来る事は見守り、介助が必要な方は職員が口腔ケアを手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認し、声掛けによる促しや誘導を行っている。自発的にトイレに行くことのできない方には、3時間毎に声掛けレパッド交換を行っている。	排泄チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、適時の誘導でトイレでの自立排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動と栄養バランスの良い食事、こまめな水分補給で便秘の予防に努めている。排便記録を確認し、必要に応じて服薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の大浴場での入浴を行っている。その日の体調や気分に応じて個別入浴の対応をしている。	各ユニットにユニットバスがあり、週2回程度の入浴ができるよう支援している。ユニットバス以外に1階には大浴場があり、利用者の希望や体調によって活用している。楽しく入浴できるよう心がけ、言葉かけなどに工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の使い慣れた寝具や着衣を使用し、寒暖の差があれば調整している。日中は日々の状態を確認し、声掛けの元昼寝してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を確認し、用量、用法を理解したうえで、服薬時は職員2名で声に出し日付、名前を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の残存能力に合わせ、楽しみにしている事など支援している。		

グループホーム あんしん和光 ライラック(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調を見て、屋外レクリエーション等を実施し、玄関にて外の空気に当たるようにしている。裏庭での野菜の苗植えや収穫をし、回数は少ないが海や船を見にドライブ、アイスを食べに行っている。	天気の良い日には事業所周围を散歩したり、玄関先、畑での日光浴など季節を感じることができるよう日頃から心がけている。希望の場所や港へドライブに出かけるなど、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持できる方にはしてもらっているが、ほぼ預り金として職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函と電話の取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生会の飾り、その他クリスマスや季節の飾りを心掛けている。 車椅子対応の広いトイレ、広いリビング、ゆったりソファに座ることが出来、居心地の良い環境を整えている。	居間、食堂は一体的で窓も多く、日差しが入り込む過しやすい空間となっている。ソファとテーブルがゆとりある配置になっており、利用者はテレビを見たり、会話をしたり音楽を聞くなどしてゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、ゆっくりソファに座ったり、お話をしたりして仲良く過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの配置をされ、自由に気持ちよく過ごされている。車椅子で十分な広さがあり、タンスや引き出しには分かりやすいラベル表示をし、壁の装飾もしている。	清潔感ある居室には、使い慣れた馴染みの家具やテレビなどを持ち込み、家族の写真や趣味の物を飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床のバリアフリーで車椅子の方、一人でトイレ使用が出来る。各所に手すりを配置している。		